

組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume
13
Number
19

2025 年 9 月 10 日



第 6 回組紐国際会議 基調講演「Narrow, But Not Limited」Annie MacHale

目次 Contents

第 6 回組紐国際会議「Braids 2025」報告	西 幾代ほか	2
ささなみ別れ	西 幾代・多田牧子	8
平成の百工比照	多田牧子	12
組紐・組物学会会告		14

In this issue

Braids 2025	I. Nishi, Y. Suzuoki, F. Kitahara, N. Bessho, R. Munekata and T. Takagi	2
Sasanami-wakare	Ikuyo Nishi and Makiko Tada	8
Upating the Edo Crafts Catalogs		12
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society		14

組紐・組物学会ニュースレター

第 13 巻 通算 19 号 2025 年 9 月 1 日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

大谷研究室内 〒 606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL : (075)724-7905 E-mail : miyakoinoda1@gmail.com

本印刷物と同じ内容は学会の Web でもご覧になれます。



組紐国際会議

Braids 2025 Cleveland 報告

総括報告 西 幾代

個別報告 別所信子・北原文代・宗方理枝・鈴置有子・高木たまき



(写真1) CWRU 大学キャンパス

1. はじめに

第6回の組紐国際会議となる Braids2025 が、2025年6月15日～21日にアメリカで開催されました。場所はオハイオ州クリーブランドのケースウェスタンリザーブ大学（CWRU）です。現地の実行組織はアメリカ組紐協会（AKS）で、そのメンバーの Bob さんや Jane さんの地元でもあります。実行委員長として尽力された Giovanna さんは開会直前に急病となり、会期中を大学病院のベッドで過ごすという無念の状況でした。会期中は著名な作家や研究者による基調講演、ワークショップが行われ、共にとても充実していました。参加者は120名、日本からの参加者は12名でした。CWRU キャンパス内はリスやウサギが行き交う自然豊かなところで、クリーブランド美術館などもあり、自由時間を楽しむことができました。(写真1)

2. プログラム概要

基調講演は月・火・木・金の朝8時30分より約1時間行われました。4名の作家、研究者による講演を聴くことができました。ワークショップは毎日様々なクラスが同時進行していました。1日クラスが、32クラス。2日間クラスが、11クラス。今回、4名の日本人が講師として参加しました。3名が組紐クラス、1名がプライ・スプリッ

トクラスを担当しました。ビーズ組紐、プライスプリット、手まりなどもありました。著名な先生方から学べる楽しいプログラムとなっていました。作品展は、ワークショップ講師による作品がクリーブランド植物園で展示されました。様々なテクニックによる素晴らしい作品が一般にも公開されていました。参加者向けのイベントは会期中のマーケットプレイス、中日のクリーブランド美術館・植物園などの見学がありました。また最終日には、夕食会、参加者作品のオークション、また AKS の創設メンバーであったスーザン・バッシュが遺した作品も展示されました。

3. 基調講演

世界の組紐と織物の様々な側面をテーマにした基調講演が毎日行われました。地元クリーブランドで地域活動をしているジェシカ・ピンスキーさんの「テキスタイルアートを通じたコミュニティ作り」は、染色や織物を交流の手段として、若者や移民を巻き込んだより良い地域作りのお話でした。「幅は狭いが可能性は無限大」というタイトルのお話をされたのはアニー・マクヘイルさんでした。インクルームを使った作品を中心に紹介されました。フィンランドの民族衣装を着て壇上に登られたマ



(写真2) 基調講演「組紐復元技術」

リー・ボイピオさんの講演は「北欧で18世紀から20世紀に作られた宝石のような組紐」で、まさしく光り輝くブレイドをたくさん見せてくださいました。最後の日は多田牧子先生の「組紐復元技術」に関する興味深いお話でした。組紐の知識がない依頼主の要望に沿いつつ、できるだけオリジナルに近いものを作ろうとされる先生のご苦労が垣間見られました。4つの講演のビデオは、アメリカ組紐ソサエティのウェブ上で有料ですがまもなく見ることができるそうです。(この章は北原文代さん担当)

4. ワークショップ

ワークショップは毎回の国際会議でも主要プログラムです。今回も多彩なプログラムで行われました。組紐のクラスは合計22クラスもあり、ジャンル別では一番でした。日本人講師の組紐クラスは大変人気があり、ほとんど満席でした。

高台：4クラス

- ・John Whitley: 広幅の高台組紐
- ・Terry Flynn: アンデスの頭帯を高台で組む
- ・Barbara Walker: プライ・スプリットで飾られた高台の平紐
- ・Yuko Yoshida: 高台で「木の葉組」を組む (写真2)

綾竹台：1クラス

- ・Michael Hattori: 綾竹台の組紐

丸台・ディスク&プレート、オクトプレート：11クラス

- ・Carolyn Oliver Haushalter: 継目がわからないパターン移行方法
- ・Rosalie Neilson: 内記組の影響を受けた金剛組
- ・Yuko Yoshida: 丸台で「木の葉組」を組む
- ・Adrienne Gaskell: Beaded fob necklace、フサなしのビーズ組紐
- ・Adrienne Gaskell: 「朝露組」老松組の発展系でビーズで朝露を表現したもの
- ・Bob Galivan: アンデスの組紐・新兵訓練
- ・Bob Galivan: アンデスの組紐・ビーズ平組紐
- ・Elliott Evans: 丸台で組む奇数玉の組紐・重打など
- ・Yuko Suzuoki: 形を変えられる組紐アクセサリ（オクトプレート）
- ・Ikuyo Nishi: 七宝レースとささなみ別れ（丸台とオクトプレート）

ループ組紐：4クラス

- ・Joy Boutrup: ヨーロッパのループ組紐
- ・Ingrid Crickmore: 指にかけるループ組紐技法で作る筒状組紐



(写真3) 高台ワークショップ 吉田クラス



(写真4) 作品展示

- ・Jacqui Carey : クテ打で亀甲組
- ・Jean Leader : 経糸交差の投石紐

組紐以外は、プライスプリットの3Dネックレス、手まりなど、様々なワークショップがありました。細幅の織機・インクルールームが4クラス、プライ・スプリットが5クラス、カード織が3クラス、その他が10クラスでした。

今回は大学のキャンパスで開催されたので、参加者の多くは寮に滞在していました。夜になると寮の談話室では、その日の授業に取り組む参加者や、学んだことについて語り合う参加者がいたようです。また情報交換も盛んに行われたようです。

5. 作品展示

クリーブランド植物園のエントランスホールにて、講師による作品展がありました。一般の方々にも公開されており、さらに会期後も続けての展示でしたので、なかなか有意義な展示会だったと思われます。組紐やプライスプリット、織物系の作品などが立体的にディスプレイされていました。(写真4)

6. イベント

- ・マーケットプレイス

月曜日と木曜日の夕方にはマーケットプレイスが開催されました。素晴らしい作品、手作りの道具、書籍、材料が一堂に集まり、大変魅力的なお店がいっぱいでした。販売されるたくさんの品々に加え、マーケットプレイスでは先生方や参加者の皆さんと直接お話ができ、前回の会議以来、どのような活動を続けてきたのかを知るととても良い機会でした。(写真5)



(写真5) 展示即売会



(写真6) 会議晩餐会

- ・見学会

クリーブランド美術館のバックヤードツアーなどが行われ、通常は入れないバックヤード（舞台裏？）を案内して頂いたり、ユニバーシティサークルにある近隣の素晴らしい美術館や、植物園を各自で楽しみました。

- ・コンファレンスディナー（写真6）

最終日（21日）にはコンファレンスディナーがありました。またコンファレンスディナーと同じ会場で、参加者作品のサイレント・オークション（作品の横の紙に名前と入札値を黙って書く）、スーザン・バッシュの遺した作品の展示や、参加者の作品展がありました（写真7）。サイレントオークションでは、AKSとThe Braid Societyのために2,700ドルが集まったそうです。そして、食事をいただきながら、Braids2025の実行委員の方々への感謝のプレゼント贈与などがあり、またバンド演奏などで最後の夜を楽しく過ごしました。次回の、Braids開催地は未定とのことです。

7. 終わりに

今回、開催地クリーブランドまでの直行便がなく、日本人参加者それぞれが、シカゴ、ロサンゼルス等、乗り継ぎでの参加となりました。飛行機が何時間も遅れ、夜中に到着と言うグループもありましたが、皆様、無事に参加でき、帰国出来て良かったです。日本からの参加者が12名と少々寂しさはありましたが、Braids2025が開催されたことに感謝いたします。参加者の皆さんには次の記事に感想を寄せて頂いています。またの機会に各国の方々と交流できることを願います。



(写真7) スーザン・バッシュ遺作展準備

Braids 2025 に参加して

別所信子

Braids2025の国際学会、海外での集まりには初めて参加させていただき、とても有意義な時間を過ごすことができ、多田牧子先生はじめ皆さまには、本当に感謝しております。どうもありがとうございました。

緑豊かな公園のようなキャンパスにある Case Western Reserve University の学生寮に宿泊し、リスが芝生の上を走り回るのを見て、大昔アメリカの大学に初めて行った時のことを懐かしく思い出しました。久しぶりにたった1週間でしたが、学生気分になることができました。講演では多田先生の日本の古い組紐の復元のお話が、とても印象に残りました。日本の素晴らしいものの存在を世界に発信するのは、とても大事なことだと感じました。クリーブランド美術館での組紐作品の展示も、各国の方々独自の特徴がよくでていて興味深いものでした。

アメリカではビーズを使った組紐が盛んだと伺っていたので、今回のワークショップではビーズを使ったコースを中心に参加させていただきました。世界各国からの参加者がいらっやして、それぞれ発想が異なるのでとても良い勉強になりました。

アメリカ人の講師の方のお話では、日本語が全く読めない段階で日本語で書かれた組紐の本を買って、自分で勉強を始めたということで、その遅しさに感動しました。

日本語も読めて、いろいろな作品も身近で見ることのできる環境にいるのだから、その機会をもっと生かさなければ、と思いました。

国際学会での講演、ワークショップの他にも、思いがけずアメリカの組紐学会会員の皆様のお宅でのパーティーにも参加させていただき、アメリカ人の生活の一端を垣間見る機会にも恵まれ、楽しい思い出になりました。コロナ流行が長かったのもあり、久しぶりの海外でリフレッシュできました。

また日本からの参加者の皆様と、イタリアンレストランで調達した食べ物を並べて、楽しく夕食をご一緒させていただいたのも楽しい思い出です。また次回海外での学会が開催される折には、是非参加させていただきたいと思っています。



(写真8) 寮内の持込み夕食

Braids 2025 に参加して

宗方理枝

Cleveland には2時間遅れて到着、おかげで迎えに間に合わず初めてUberを使う羽目になってしまいましたが、登録場所まで探して乗せて行ってくれたので無事にカードキーをもらい寮に到着。その後滞在何回もUberを使うことになりましたがアプリ使用より場所によっては指定の車を見つける方が難しいことがわかりました。

海外の大学寮に宿泊するのは初めてなので、浴槽こそありませんでしたが設備の整っていることと部屋が広く、いわゆる日本の学生寮との違いにはビックリ、キャンパスの環境の良さもあり快適に過ごす事ができました。ただ、スーパーやテイクアウトの店が5時前後で閉まってしまうのにもビックリでした。また、話には聞いていましたがスタバでのショートラテが\$7.50程で円安を実感。その後も買い物に行っても思わず円換算をしてしまい、“日本情けない〜”とちょっと残念な思いでした。

Braid 2025ではワークショップのみならず毎朝の講演やバザー等の企画など盛り沢山でした。私は16, 17日はJoy Boutrup先生のLoop braiding、19日はKatherine Buenger先生、20日はBob Galivan先生のクラスに参加しました。Loop braidingは日本でのクテ打ちと同じでしたが2日目は二人一組で組んでみるというのが新しい経験でした。

Katherine先生のクラスはビーズ使用の四つ組で、作品を完成させることができました。Bob先生のクラスは安田組にビーズで使ったプレスレットでした。手を挙げると先生方もすぐ教えに来てくださり楽しく作成できました。18日はCleveland美術館のミュージアムツアーに参加し、通常は展示していない刺繍等のタペストリーなども見せてもらえました。大きな美術館でツアーの後に中をまわりましたが、多くの時代の多くの作品が展示されており半日では十分に見ることができませんでした。ですが思いもかけずピカソの青の時代の代表作の“人生”に遭遇できたのは幸いでした。また21日に“ロックの殿堂”を訪れましたが、説明書きが英語ですし（当然ですが）暗いので翻訳機をもっと活用すればよかったかな？と思いました。でも有名ミュージシャンの写真や服、ギター等いろいろと展示されておりそれぞれ結構楽しめました。

Clevelandは日本でいう大きめの地方都市といった所かと思いますが、アメリカの豊かさを感じさせる場所でした。また日本であまりお話しする機会がなかった方々とも親しくご一緒できたことは何よりの収穫でした。

Braids2025 に参加して

西 幾代

海外での国際会議への参加は、今回で3回目となります。マンチェスターとタコマは共に日本人参加者20名以上、ツアーのような気軽な気分で参加しました。しかし、今回は12名。チケットの手配も自分で、それぞれ個人で現地へと言うことでした。もうここからプレッシャーでしたが、多田牧子先生のお口添えで、高木たまきさん、清澤澄江さんと一緒にすることができ、沢山助けていただきました。ありがとうございました。

クリーブランドへは直行便がありません。私達はシカゴ経由で明るい時間には到着し、ウェルカムパーティーへも参加の予定でした・・・それが・・・シカゴで足止め。何と7時間以上も遅れて「クリーブランド・ホプキンス国際空港」へ到着。もうすでに真っ暗です。入国早々にお土産話ができました。それから、タクシーで会場となるケースウェスタンリザーブ大学へ向かいました。と、ここでもお土産話が。部屋のキーを受け取る場所が解らず、多田先生ご夫妻、吉田有夫子さん、鈴置有子さんに助けていただきました。真っ暗な中、私達三人を見つけていただき、無事に部屋へ入れました。

ここからワークショップ等の報告になります。今回初めてワークショップ講師として参加させていただきました。準備の段階から、当日まで多田牧子先生には多大なアドバイス、お力添えをいただき、何とか無事に終えることができました。参加者2,3名のクラスもあるなか、私のクラスは満員でした。参加いただいた皆様、ありがとうございました。皆さん明るく熱心な方ばかりでした。「七宝レース」は丸台で、「ささなみ別れ」はオクトプレートで。拙い英語より、実際に見ていただくとうと実演しました。真剣に、楽しそうに組んでいた嬉しかったです。帰国後、作品写真や、楽しかったですよメールもいただきました。緊張はしましたが、楽しい思い出に、そして良い経験になりました。(写真9)

植物園にて作品展示もしていただきました。ここでは、講師の素晴らしい作品を見ることが出来ました。ワークショップも3講座受けました。まだ未完成の作品もありますが、正直、準備は大変でしたが貴重な体験ができました。他にも書き切れない思い出が沢山できました。関わってくださった皆様に感謝です。



(写真9) ワークショップ 西クラス

私を成長させてくれたハプニングとコミュニケーションのBraids2025

鈴置有子

Braids2025に講師として参加することは私にとって大きなチャレンジでした。英語のスキルへの不安は勿論のこと、初めての渡米、移動中の治安等、決断前も決断してから心配事は尽きませんでした。

しかしながら、様々な技術のWSが開催される国際会議では、組紐以外でも自分のアクセサリ作りに応用できる新しい技術を習得出来る事、植物園で作品が一般公開される事、作品をバザーに出せる事、経由地シカゴでは、歴史的建物やシカゴ美術館に行く事が出来る事。そして、Braids2019伊賀で知り合った人達との再会は何よりの楽しみでした。

心配事と楽しみを天秤にかけると、遙かに後者が勝っていたのでした。実際、想定外のハプニングは数え切れないほど起こりました。クリーブランドへはシカゴ空港を経由して二日かけて行きましたが、一人での長時間フライトはかなり緊張していたので、到着初日には、購入したパンを空港のベンチに置き忘れる、食事の注文方法が分からず後ろにいた見ず知らずの人に助けをもらう、地下鉄の無人券売機でおつりが出て来ない等々、次々とハプニングは起こりました。

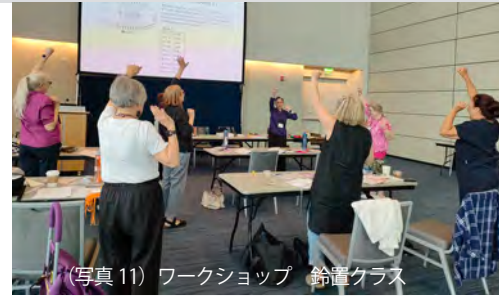
クリーブランドに着いた後も、学生寮建物の入り方が分からないところから始まり、数日後には部屋のキーもロックする始末。公園では大雨に降られ、近くにいた人とテントで雨宿りする場面もありました。

WS中にも大きなハプニングは起きました。事前にとったアンケートではほとんどの人がディスクでの組紐経験者。ただ、オクトプレートを使った円螺旋組はほとんどの方が初めてだったので、そこが肝と思い用意しておいたスライドを、一枚削除してしまったのです。私は、一瞬頭が白くなりましたが、サポートに入って下さっていた多田先生のアドバイスでスライド説明から実演説明に切り替え、無事事なきを得ました。この時のハプニングはおそらく一人では対処出来なかったと思うので、本当に助かりました。(写真10)

写真は多田先生が途中休憩に体操をして下さっているところです。皆さんとても楽しそうで、場が和みました。余裕が無く、WSを進める事に必死だった私には、「参加者に楽しんでもらう」という事を考えさせられた出来事でした。(写真11)



(写真10) ワークショップ 鈴置クラス



(写真11) ワークショップ 鈴置クラス

一方、楽しみにしていた事の実現や、現地に行ったからこそ体験出来た感動は想像を超えていました。想像の中だけの国だったアメリカは、自然豊かなアート溢れる街並み、美術館の広さ、水の値段の高さや、食べ物の量、人の大きさまでもが新鮮でした。

自分のWSでは伝えきれなかった部分や英語の準備不足等課題は残りましたが、「形を変えて楽しむ組紐アクセサリ」を参加者が楽しんでくれた事、当日完成しなかった参加者が後日完成品を見せに来てくれたことは本当に嬉しかったです。生徒として参加したWSでも、先生と一緒に参加していた他国の人が、私の英語スキルに合わせてゆっくり話し、ジェスチャーで教えながら私を支えてくれました。英語で言っていることを全て理解出来なくても、無事に作品が完成し、コミュニケーション出来た時間は、貴重な素晴らしい時間でした。

このように、Braids2025への参加は不安からのスタートでしたが、楽しみしていた事は勿論のこと、ハプニングでさえも、私にとっては全てが有意義な体験でした。

空港や街中で起きたハプニングも、よくよく考えてみると、その度に現地の人と何かしらのコミュニケーションが生まれた訳で、それは私にとって現地で一番印象深かった体験と言えました。それら全ては些細な会話でしたが、私にとっては大きな自信に繋がる体験でした。

知らない初めての土地で窮地に立たされた経験は、ポジティブに捉えたと、今後の自分の人生においても少なからず自信に繋がる体験だったと思います。

コミュニケーションに必要な事は、英語のスキルだけでは無いということを身を持って知ることが出来たBraid2025でした。

背中を押して下さり、支えて下さった全ての方に感謝です。



(写真12) 朝食は学内のVegan 食堂

Braids2025 に参加して

高木たまき

2012年 Manchester、2016年 Tacoma、2019年伊賀上野、2022年 Copenhagen、そして今回が5回目の参加になりました。たまたま誘われて参加したBraids2012で、北欧サーミ人の織紐-Band Weavingの手解きを受けてから紐を織ることが私のライフワークになりました。このことが日本の織紐、真田紐の研究を始めるきっかけにもなりました。

今回もいろいろなWorkShopがありましたが、迷わずFinlandのMari Voipioの織紐のWorkshopに参加しました。Pattern Heddles and What you can do with yours というタイトルどおり、ひと月前にMariさんからメールでBand Weavingの歴史や博物館に所蔵されている古い紐の情報が送られてきて、その中から自分が何を織りたいか希望を出すことから始まりました。Band WeavingにはHeddleという綜紵を使用します。これには色々な形があって、自分がどのHeddleを使用するかについてもそれぞれ対応してくれました。

今までのWorkShopは講師が用意した図案と材料を使用し、参加者は同じものを作りましたが、クラスの中でいろいろな紐が織り上がってきて、またそれぞれの道具も見ることができとても楽しかったです。そしてたくさん情報交換もできました。中でも参加者の一人、Janie Yates手作りのPVC Loomは、使いやすそうな簡易織り機でした。彼女から作り方を送ってもらったので作ってみようと思っています。

Jennifer WilliamsはBraids2016からのお付き合いで、今回は彼女の初めてのWorkshopに参加しました。材料は全部用意されていて、その整え方は彼女のセンスが溢れており、楽しいWorkshopでした。彼女はBraids2019伊賀上野に家族連れで参加していました。その時の可愛い男の子が今は身長2mを超えたと聞いて年月が過ぎたのだと実感しました。

今回の開催地であったOhio州Cleveland。その中の、日本風に言えば文教地区というのでしょうか、大学・博物館・植物園などを中心としたとても良く整えられた地区に滞在しましたので、治安の不安などはありませんでした。芝生の中を歩いていると、時折スプリングラーの散水に足元をやられましたが、コンビニもなく、お店やスーパーも夜7時~8時くらいに閉まるという懐かしいような街でした。大学の食堂の朝食とTea timeのおやつがVegan料理でした。(写真12)

Veganは話には聞いていましたが、身をもつての初めての体験でした。動物性タンパク質を摂らないのは少々もの足りない感もありましたが、最終日のあたりは身体が軽くなったような気がしました。なぜVeganだったのが幹事さんに聞きそびれましたが、これも思い出の一つになりました。



西 幾代・多田牧子 Ikuyo Nishi and Makiko Tada

1. はじめに

創作の組紐を考えるにあたり、伝統的な組紐「ささなみ組」から面白いものができないかと、色々と思案いたしました。そして、帯締めだけでなくネックレスなどのアクセサリーになるものを、とも考えました。そこで「ささなみ組」を2つに分け、そしてくっつけたらと試行錯誤し、この「ささなみ別れ」ができました。「ささなみ別れ」は、ささなみ組の中央を開けることにより、そこへ、ビーズ、パールなどを入れるこ

とができます。また、上下の糸を両サイドに移動した後、その糸を上下に移動させることで、くびれができ、そこへビーズ、パールを入れることができます。また、両サドの締め力を変える（例えば引き締めの力を片方だけ強くする）ことで、緩やかな丸みのある紐となります。また左右の玉数を非対称にすることで、丸みのついた紐になり、ネックレスとしても最適です。



図1 ささなみ別れ



図2 ささなみ別れのバリエーション

2. 「ささなみ別れ」の組み方

星印から組み始めます。
上下交換の後、左右にある糸は直角じめを行ってください。

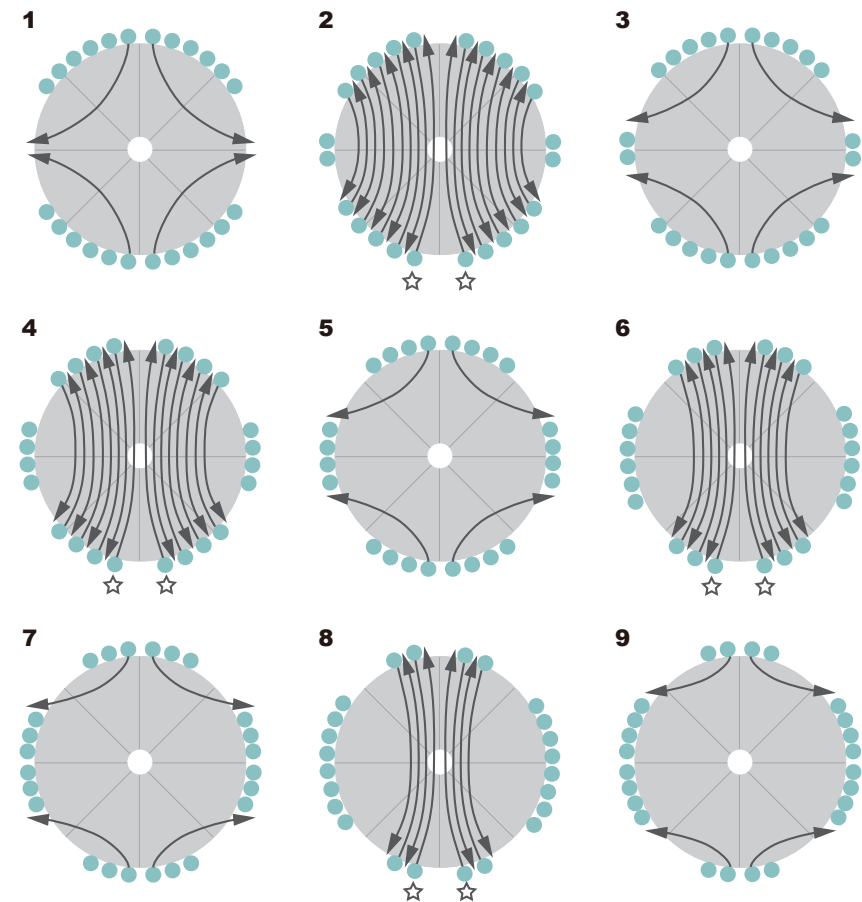


図3 丸台で組む

3. ビーズの入れ方



図4 2の場合の初期配置（中央にパール）



図5 3の場合の初期配置（両側にパール）

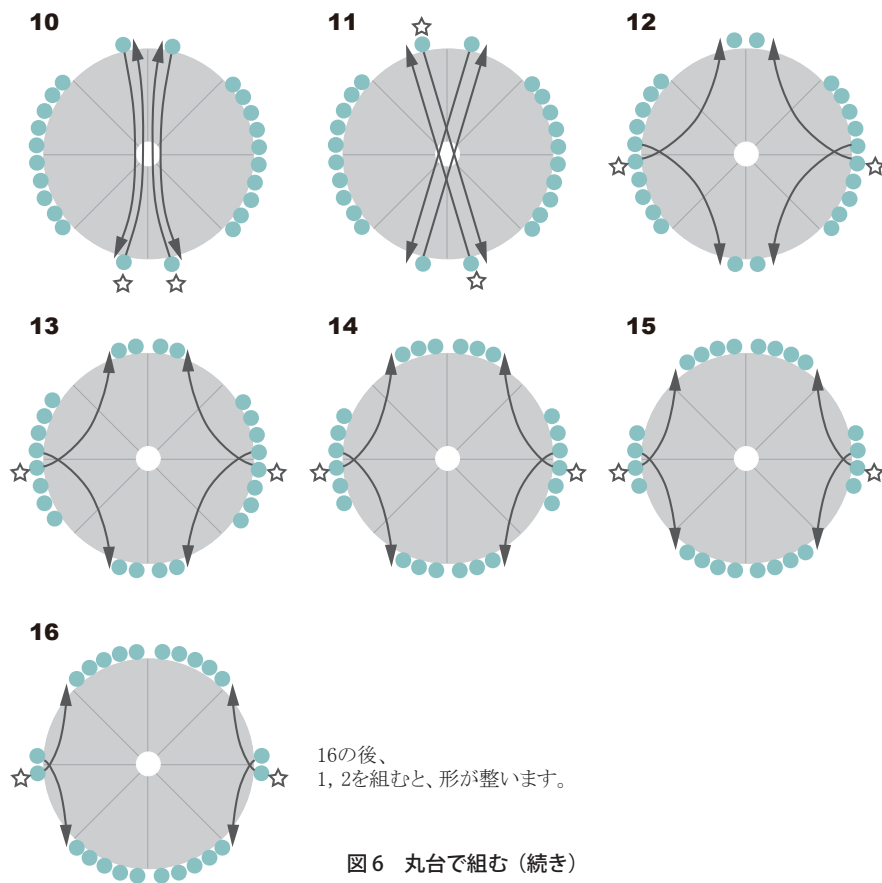


図6 丸台で組む (続き)

4. 会員の皆様の参考作品



5 オクトプレートで組む

星印から組み始めます。
上下交換の後、左右にある糸は直角じめを行ってください。

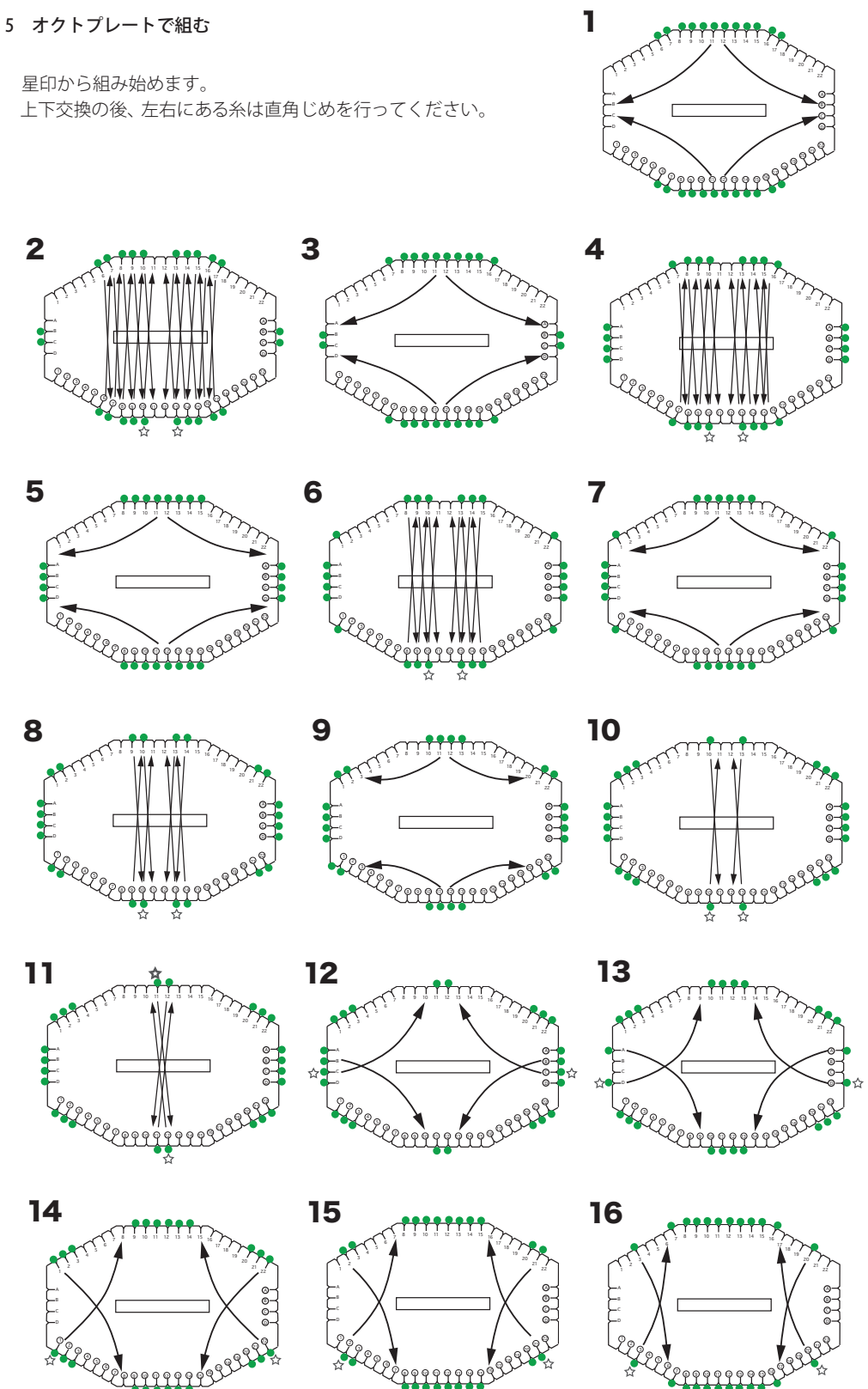


図7 オクトプレートで組む

「平成の百工比照」組紐の部 収集完了

多田牧子

百工比照は、加賀五代藩主前田綱紀（1643～1724）が、家臣に命じて、工芸各分野の資料を収集し、まとめたもので、重要文化財に指定されています。まさに工芸の集大成で、「工芸見本のタイムカプセル」とも言われています。材質・用途・形態別に11箱と付属の2箱に納められています。しかし小さなものは和紙に一括して包まれているもあり、正確な総点数は明らかになっていないそうです。現在、東京の前田育徳会が所蔵しています。

組紐は、第一号箱第十四架「打糸類」に収められており、第一面から第四面まであります。

それぞれ上下2段に仕切られた横長の薄い奥行きのある箱状の4ページ（第一面から第四面）でできたしっかりと装丁された本のような仕立てになっており、それぞれ10本から15本の短い組紐本、合計98本が収められています。そして「江戸打、ます花打、あんた打、はたかい打」など、それぞれに名前が書き込んであります。とても美しい見本帳です。

そして「平成の百工比照」とは、金沢市と金沢美術工芸大学が共同で進めているプロジェクトで、江戸時代の「百工比照」の現代版です。

「平成の百工比照」は、全国の工芸資料の技法、制作工程、材料や道具類、完成した製品などが「陶磁・漆工・金工・染織」の分野ごとに収蔵箱に納められており、棚から自由に取らだして見るができます。収蔵箱は中性紙で作られており、中にアクリル箱で蓋がしてあります。中には開けて見ることも触ることがで

きるものもあります。また学校などに貸出もされるそうです。

今回、染織の部に組紐が加わることになり、伝統技術伝承者協会の監修で、組紐の収集は筆者が担当させていただきます、編集を行いました。易しい基本的なものから複雑な組織を持つものや創作の組紐まで、50箱に収まるようにできるだけたくさんの種類の組紐を集めました。

材料1箱、クテ打の組紐6箱、唐組台の組紐4箱、丸台の組紐17箱、高台の組紐9箱、角台の組紐3箱、綾竹台の組紐5箱、創作の組紐5箱の内容になっております。

またそれぞれの箱の蓋に当たる部分には、組紐の名前、構造、製作方法（組台など）、製作者名、作った組台で基本の組紐を組んでいる動作の動画を見ることができるようQRコードなどを載せました。現在の組紐についてなるべくお分かり頂けるように編集致しました。

この夏、それを箱に収蔵する前に平置きで展示したコレクション展2「KANABIの百工比照（染織編）」展が、金沢美術工芸大学2号館1Fアートギャラリーで行われました。展示会は終了しましたが、まだ箱に収まっておりませんので、組紐編は自由に見ることはできませんが、箱に収まった後は、開館日には自由に見せてもらうことができます。金沢にいらした時は寄ってご覧いただくと嬉しいです。最後に、収集にご協力いただきました方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



「平成の百工比照」に収録された50箱のうちの4箱。実物（左）は寸36x29cmの紙箱に、説明（右）はその蓋の裏側に収まる。

2024年度ワークショップ

「ささなみ別れ」

2024年5月11日（土）西 幾代



西先生考案の創作組紐「ささなみ別れ」、ささなみ組を左右に分け、またくっつける楽しい組紐です。ビーズを入れたり、引き締めの力を片方だけ強くして円形にカーブする組紐にしてネックレスを作ることができます。

「ビーズ組紐のネックレス」

2024年10月23～24日 Adrienne Gaskell



前の部分に特殊なビーズを用いた重厚感のある素敵なネックレスや新しいタイプのデザインのビーズを用いた軽快なネックレスを制作しました。またビーズスピナーの使い方などを学習しました。

「クネネ組」

2024年6月15日（土）多田牧子



曲がりくねったループが左右にできる組み方で、「芯糸」とそれをカバーする「外糸」を交差したり、色を入れ替えていしながら自由に創作できる楽しい組紐です。会場ではオクトプレートでストラップを作りました。

「Uneri (うねり組)」

2024年12月4日（土）吉田有夫子



源氏組をアレンジした面白い組紐です。オクトプレートを用い、曲がる方向を変えながら、曲線の組紐を作成、段数を変えて面白い曲がる組紐を制作しました。組み上がった紐は、キーホルダー、ネックレスなどに仕上げました。

「ビーズ組紐のネックレス」

2024年10月12日（土）Adrienne Gaskell



組紐ディスクを用いてビーズを使用したネックレスを作るプロジェクトに挑戦しました。ビーズの種類や色やデザインがいろいろあり、各個人が自分好みのとても素敵なビーズのネックレスを制作することができました。

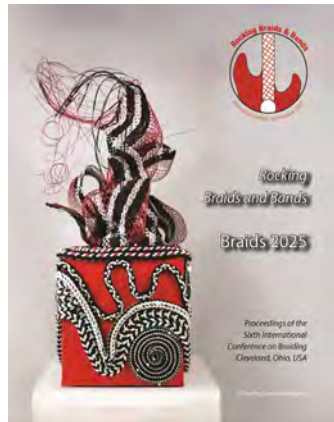
「アンデスの手組み紐」

2025年2月15日（土）青柳 淑枝



たくさんの貴重な写真と体験談とともに、アンデスの投石紐に使われる組紐をご紹介いただきました。アンデスの手組紐は、道具は何も使わず手だけを使って組みます。ちょっと油断すると迷子になってしまうので注意が必要です。

新しい組紐の本



本書は本年6月に米国クリーブランドで開催された第6回組紐国際会議の図録である。別記事にも報告されている通り、ワークショップの数でも Kumihimo は全体の51%を占めているが、本書の中でも組紐とループ組紐の各講師が寄稿した総ページ数は全体の50%を占めている。その内訳は以下の通り。

- | | | |
|--------------------|------------------|---------|
| ・「組紐の復元」 | 多田牧子 | 8-10 頁 |
| ・「綾竹台の組紐」 | Michael Hattori | 11-13 頁 |
| ・「高台での圧縮と伸長」 | John Whitley | 14-16 頁 |
| ・「高台組紐と Ply-Split」 | Barbara Walker | 17-19 頁 |
| ・「木の葉組」 | 吉田有夫子 | 20-23 頁 |
| ・「高台で組む Andes 頭帯」 | Terry Flynn | 24-28 頁 |
| ・「内記風金剛組」 | Rosalie Neilson | 29-31 頁 |
| ・「組方移行の8要点」 | Carolyn Oliver | 32-37 頁 |
| ・「組紐教育のAI活用」 | Adrienne Gaskell | 38-39 頁 |
| ・「重打組」 | Elliot Evans | 40-42 頁 |
| ・「創作におけるデータ蓄積の重要性」 | 鈴置有子 | 43-45 頁 |
| ・「Andes 組紐の解説」 | Bob Galivan | 46-49 頁 |
| ・「丸台を回わしてみよう」 | 西 幾代 | 50-51 頁 |
| ・「14世紀の珍しい紐」 | Joy Boutrup | 67-69 頁 |
| ・「亀甲組の記録」 | Jacqui Carey | 70-73 頁 |
| ・「中空ループ紐と芯」 | Ingrid Crickmore | 74-78 頁 |
| ・「Andesのクロスワープ紐」 | Jean Leader | 79-83 頁 |
- 上記以外の15編の寄稿も、主たるテキスタイル構造は異なっても組紐に関連する重要な資料であることは言うまでもない。本書は米国組紐協会から入手できるが、現在のところ米国内への発送に限定されている。電子版は見当たらない。

- 書名：「Rocking Braids and Bands, Braids 2025」
■編集：Giovanna Imperia（米国組紐協会）
■体裁：ソフトカバー 125 頁、フルカラー
■定価：46 USD 約 6800 円
■発行：Lulu Press 2025 年 6 月
■ISBN：9780957312722



当学会の吉田有夫子理事によるワークショップなどで既に馴染みのある創作組紐の解説書である。丸台や高台など伝統の組紐の道具を使用しながらも、曲線を主体とした螺旋・うねり・木の葉などの形状を持つアクセサリが制作できるようになっている。海外の読者も想定したバイリンガル構成であり、Braids 2025（4頁参照）バザール会場で手に取る参加者も多かった。

- 書名：「組紐の無限の可能性」
■著者：吉田有夫子
■体裁：B5 版、ソフトカバー 64 頁、フルカラー
■定価：2750 円（税込）
■発行：文彩堂出版 2025 年 5 月 25 日
■ISBN：9784868021926



本書は2007年に京都で開催された第1回の組紐国際会議の図録である。各国で蓄積された組紐の情報が初めて一堂に会したので、ロドリック・オーエンのアンデスの組紐、木下雅子元理事によるループ組紐など密度の高い解説記事が含まれる。本学会も創立以前で、印刷物は参加者に配布後すぐに品切れとなり、会員の多くが入手不可能な状態が続いていた。今回電子版として複製され、AmazonのKindleやAppleのiBooksストアからダウンロードして読むことができる。

- 書名：「Space, Time and Braids」電子書籍
■著者：多田牧子・濱田泰以
■体裁：B5 版、147 頁、Kindle・iBooks
■定価：3000 円（税込）
■発行：（株）テクス ト 2025 年 8 月 25 日
■ISBN：9784925252218

組物検定試験

京都・伊賀

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。1級～3級の試験で作品の提出がある場合は、過去2年以内に制作したものとします。

■検定基準と範囲

- 5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

- 4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

- 3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

提出作品：綾竹台作品2本以上

- 2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

提出作品：高台1枚物作品2本以上

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

- 1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

提出作品：高台2枚物作品2本以上

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。



2018年12月 実技試験 京都工芸繊維大学

■合否判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さに組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は8000円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点がございます。組紐・組物学会事務局
京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室 内
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel/Fax: (075)724-7905、E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

■検定テキスト

組紐・組物学会監修の「組紐と組物一歴史・用途・制作方法・原材料」（60P, 2015）は現在品切中ですが、電子書籍版（Kindle・iBooks）をタブレットなどで見ることが出来ます。

■匠検定

筆記試験のない実技のみの試験として「匠検定」があります。実技試験は1級より難しく、高台2枚物の技能を伊賀組紐の基準によって検定します。日時等は伊賀廣澤工房にお問い合わせ下さい。

第14回組物検定 京都

第14回組紐検定は、2025年12月13日（土）に京都工芸繊維大学で行われる予定です。また1・2級高台試験は11月29または30日に伊賀廣澤工房の予定です。

2020年と2021年はコロナ禍のため検定試験は実施できませんでした。第12回の組物検定試験は2023年12月2日に京都工芸繊維大学で開催され3級1名、2級1名、1級1名がそれぞれ合格しました。第13回は2024年12月14日に京都工芸繊維大学と伊賀廣澤工房で開催され2級1名が合格しました。

1級合格者は、「組紐・組物学会認定講師」となり、組紐指導者として活躍しています。認定証の授与の他、学会の支援による個展の開催や、名刺（学会ロゴ入り）を学会が制作します。認定講師は現在、小嶋博子、西幾代、丸山文乃、岡本睦子、清澤澄江、三上扶実子、銭谷信子、吉田有夫子、鈴置有子、木村章子（敬称略）の10名です。従来、個展の際に個別の作品図録も制作していましたが、昨今の事情に鑑み、図録の印刷内容と同じ情報（各認定講師のプロフィールと作品写真）が学会のWeb上で公開されています。

<http://www.kumihimo-society.org/instructors.html>

ワークショップ予定 2025-2026

■第1回ワークショップ（定例総会・基調講演を含む）
5月24日（土）10:00～16:00 多田牧子

■第2回ワークショップ（日本女子大）
7月12日（土）10:00～16:00
大谷章夫・魚住忠司・仲井朝美

■第3回ワークショップ（日本女子大）
9月13日（土）10:00～16:00 青木美紗江

■第4回ワークショップ（京都工芸繊維大学）
10月28日（火）～19日（水）10:00～16:00
エイドリアン・ガスケル

■第5回ワークショップ（京都工芸繊維大学）
12月13日（土）10:00～16:00 北原文代

■第6回ワークショップ（日本女子大学）
2026年2月14日（土）10:00～16:00 雨森浩子



京都工芸繊維大学でのワークショップ 2024.05.11

役員

■会長

西 幾代 : 組紐研究家

■副会長

濱中知子 : ハマナカ（株）

松梨久仁子 : 日本女子大学

■理 事

荒川光久 : 全国くみひも教材センター

魚住忠司 : 村田機械（株）

大谷章夫 : 京都工芸繊維大学

北村雅之 : 北陸ファイバークラス（株）

清澤澄江 : 組紐研究家

倉谷泰成 : (株) カド コーポレーション

寺本 靖 : (有) 寺本文化財工芸社

仲井朝美 : 岐阜大学

西本博之 : 大阪産業大学

濱田泰以 : (株) 伝統みらい

圓井 良 : 圓井繊維機械（株）

丸山文乃 : 組紐研究家

吉田有夫子 : 組紐研究家

渡辺一生 : 渡敬（株）

廣澤浩一 : 廣澤徳三郎工房

多田牧子 : 組紐研究家

顧問

事務局

猪田宮子 : 京都工芸繊維大学



組紐・組物学会
The Kumihimo Society

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室内

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel: (075)724-7905 E-mail: miyakoinoda1@gmail.com

www.kumihimo-society.org

ご入会、ワークショップ、組紐検定、シンポジウム講演、作品・製品展参加のお申し込みはこちらをお願いします。

組紐・組物学会 年会費改定のお知らせ

2026年度より、メール会員の年会費4,000円から5,000円とさせていただきます。郵送会員様につきましては、6,000円となります。今後、郵送不要・メールでの連絡を希望という会員様は、その旨、事務局へメールアドレスを御連絡下さい。